

私を救った一冊の本

藤田 耕司

70歳を前にしたあたりから体が弱って去年は同じ病院で8回も入退院を繰り返しました。看護師さんたちに、「あら、また来たの、前と同じ部屋の同じベッドを用意するネ」等、すっかり馴染みになりました。一つの病気のため他の臓器が次々と悪くなり一年の大部分を病院のベッドで過ごしました。だんだんと気力も無くなり不安と絶望の暗い毎日でした。

そんな時、8度目の入院の時、図書館から借りた一冊の本を持参していた私はベッドの上で何気なく開いていました。初めは何の感慨もなく惰性で眺めていましたが読んでいるうちに何かが頭の中でスパークしてきたのを感じました。本の内容は、敗戦に近い東南アジアでの従軍医師たちの体験記です。敵からの銃撃、飢餓、伝染病等出口の見えない恐怖と不安、そうした苦境の中で懸命にしたたかに生き抜いた彼らの行動に感銘を受けました。

戦場と病院では全く隔絶した世界ですが彼らに比べ自分は何と恵まれているのか、何と弱い気持ちでいるのかと気づきました。力を貰った私は少しずつポジティブになりました。幸い今年を通院のみで過ごしています。

現在は週2、3度図書館に通います。市内図書館、中央、地域、分館13か所全てを利用しています。新書には期待感がありますし、以前読んだ本もそのときどきに新しい発見があります。

種々の本棚を見ていると気持ちが高揚して想像と期待感で胸が膨らみます。本を読むことは私の生活の糧であり根幹となっています。